

甘えられない子供たち 1

高橋健雄

<http://mindsun.net/>

自分を見つめる時間を

思春期は、自立と依存にゆれる時期です。甘えたいけれど甘えられない時期といってもいいかもしれません。感情が不安定で反応も過敏です。大きなエネルギーを持っていますから、時にはぶつかりあって暴力事件、さらに逸脱した行動になります。

逸脱行動に走る時、大人にも極端に攻撃的になるところがあります。自分の行為行動を弁護するために、また深い孤独感や悲哀感の感情を悟られないように防衛しようとしている場合があるのです。ですから、大人への強がり、怒りなどとして表現されるため、ツツパリの理由がよくわからないこともあります。

きっかけが仲間関係のいさかい等であったとしても、表面的な事実から子どもを見て、叱責、指示、命令するばかりでは、子どもが発するものの意味を見失ってしまうことになりかねません。反省を求めることも大事ですが、行動の背景にどのような意味があるかを考えていく必要があるように思えます。

反社会的な行動を繰り返す生徒は、自分の生育、生き方を見つめるという習慣がほとんどありません。生い立ちを見つめ直し、自分の憤まんが爆発するのは、なぜなのか、それま

でのものの考え方、行動のしかたを問い直すことが必要に思えます。

A子の作文

A子の例を考えてみましょう。彼女は明るい活発な子です。ところが、度重なる喫煙に加え、教室でのいたずらなどで謹慎指導になったのです。普段から声かけしていた私が担当することになりました。

生徒指導では、多くの先生は、どのくらい反省しているのか、反省の言葉をどのくらい言えるか、これからどう生活していこうとするかを細かく聞きあべき姿を説諭するようです。また苦手な反省文をどのくらい気持ちをこめて書けるかに主眼をおく先生も多いようです。私は反省文に重きを置きませんでした。なぜなら整った反省文を書くことに主眼を置くと、それまでの自分の気持ちを聴かれぬことが多く、生徒は面従腹背になり指導の場をしのぐことに心が動いて行ってしまうのです。

自分のこと、自分の気持ちを理解され、これまでの辛さや心苦しさを分かってもらえることで、立ち直りの糸口が見つけられるからです。自分のことを深く理解され、自分の気持ちを心から聴いてもらえてはじめて人は変われるのです。あるべき姿や望ましい行動を示されても人は変わりません。

さてA子には、いつものように、雑談からはじめ、生まれたところ、祖父母のこと、転校経験や家出生活などさりげな

く聞いていきます。

逸脱行動をする子どもは食事もお腹がすいている場合が多く見られます。私はこのようなとき「紅茶」を入れてあげたり、パンなど食べ物を与えたりします。悪いことをしたのに、先生が飲み物を入れてくれた。子どもの心は、ぐっと近くなり世間話から内心の話しへと変化するのです。長い時間をかけた話が終わって、今のことを作文にしてごらんという、A子は次のように書きました。

「自分は、小さい頃からいじめっ子だった。だけど本当は、すごい気が小さくて、すぐ泣く子だったと思う。(中略) 小学校5年生の時には、自分でタバコを買ってきて吸っていた。本当のタバコの吸い方をまだ知らなかった。6年生の時にはタバコの吸い方も覚えていた。この頃、TVでもヤンキー系のドラマとかが多くて、すごく憧れをもっていたし、母親にもなりたいたいと言っていた。母親も冗談だと思っていたらしく、それ程気にしていなかったみたいだった。どんどんエスカレートしていたけど、母親は何にも言わなくて、それがちょっと淋しかった。(中略)

つるむ友達もどんどん変わって、先輩たちとつるむようになっていった。悪いことをどんどん覚えて、毎日が楽しくなってきた。自分の知らなかった世界が楽しくてしょうがなかった。母親を傷つけるのを楽しんでたんだと思う。ふり向いてくれない母親をいっぱい傷つけて泣かしてた。でも、中学の時の自分には、母親のこと周囲の人の事を考える余裕が全くなかったし、自分も傷つけられるのが怖くて、親にも、友

達にも、先輩にも、彼氏にも心を開くことは、絶対にしなかった。素直のなりかたを知らなかった自分は、つっぱる事でも自分自身を出すことができなかった。でも、つっぱる事にも疲れてきてたけど、すぐに自分を変えることはできなかった。グレて楽しいこともいっぱいあったけど、辛いことが一つもなかったワケでもない。今までにいっぱい、悪いことしたけど、全部、現実から逃げていたんだと思う。

それと、自分の居場所が欲しかった。自分がここにいるんだって誰でもいいから、気づいて欲しかっただけ。でも今は、もう中学生じゃない。逃げることができなくなった。逃げるつもりもない。ちゃんと現実と向き合って、一つ一つ片づけて行こうと思っています。いろんな人を傷つけたぶん、これからは、人のために自分がなにかできるようになりたい。まずは、やっぱりお母さんカナ。

こういう作文で、あんまり好きじゃないからうまく書けないから、意味がつうじるかかわかんないよっ。先生。」(原文のまま)